

平成21年度第4回宇治市地域福祉推進委員会 会議録

日 時	平成22年3月23日(火) 10時～11時50分
場 所	宇治市役所8階 大会議室
参加者	<p>委 員：井岡委員長、加藤委員、岡野委員、奥西委員、浜根委員、迫委員、杉本委員、池田委員、岡田委員、白谷委員、根岸委員、白敷委員、小松委員、谷崎委員、原委員、原田委員、榊村委員、森委員、山本委員、酒井作業部会長          (欠席委員：羽野委員、松井委員、大石委員、小山委員、河淵委員、佐藤委員)</p> <p>事務局：中島地域福祉室長、松本地域援護係長、堀江主任          傍聴者：なし</p>
委員長	<p>【開 会】</p> <p>配付資料の確認(事務局)</p> <p>委員長あいさつ(委員長)</p> <p>出欠等の報告(委員長)          ・都合により6名が欠席</p> <p>みなさん、おはようございます。          大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。          ただいまより、平成21年度第4回宇治市地域福祉推進委員会を開催いたします。</p> <p>それでは会議次第に従いまして、会議を進めさせていただきます。</p> <p>会議次第「3 次期計画策定に向けた取り組みについて」ということですが、次期計画を新年度に策定するわけですが、その次期計画に向けて、着々と第1期計画の進捗状況の成果と課題を整理して、第2期の計画に繋げていくという作業を事務局で進めていただいているということでもあります。特に「宇治市地域福祉計画の分析と展望について」ということですが、これは第1期計画の進捗状況として社会福祉協議会、宇治市福祉サービス公社、行政、この3者において、内部評価をしていただいたということのご報告でございます。</p> <p>これを踏まえて次期計画に繋げていくということでございますので、このことについてまず事務局よりご説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>よろしく申し上げます。着席させていただいて、説明させていただきます。失礼いたします。</p> <p>それでは会議次第の「3 次期計画策定に向けた取り組みについて」の ということ、現行の「宇治市地域福祉計画の分析と展望について」ということで作成をしている資料に基づいて、ご説明とご報告させていただきたいと思っております。</p> <p>資料につきましては、事前に送付させていただきました「分析と展望」という資料、それ</p>

<p>事務局</p>	<p>からお手元にお配りしておりますピンク色のカラーファイルを使いましてご説明させていただきたいと思います。</p> <p>まず、前回1月の推進委員会の中でもご報告させていただいたところでございますが、行政の内部評価につきましては、地域福祉の視点をもって実施しております事業の把握と行政内部の自己評価を行ってまいりました。</p> <p>前回の推進委員会以降、社会福祉協議会、宇治市福祉サービス公社それぞれに、「地域福祉推進のプログラム＜推進のめやす＞」につきまして、位置づけをしていただいております事業について、自己評価をそれぞれお願いいたしました。</p> <p>その＜推進のめやす＞には、もうひとつ学区福祉委員会が実施されております事業につきましても位置づけをしていただいているのですが、今回作業部会の中でもご検討していただきました結果、なかなか統一した活動を実施されていないこと、またその活動自体が既に地域福祉に資するものであるという理由から、自己評価の対象にはしてありません。</p> <p>また今後違った形で、学区福祉委員会へは、アンケートですとか、ヒアリングなど違った形のアプローチを考えております。よろしくお願いいたします。</p> <p>社会福祉協議会、宇治市福祉サービス公社、行政それぞれの自己評価、それから現在作成しております住民アンケートの集計結果、そして学区福祉委員会の事業を総合的に分析させていただいたものが、非常に直前になり申し訳なかったのですが、先日お送りさせていただきました、宇治市地域福祉計画の分析と展望ということになります。</p> <p>事前にお送りいたしました資料「分析と展望」を2枚めくっていただくと、目次のページになると思います。現行の宇治市地域福祉計画には、第4章に5つのプログラムが位置づけられております。その中に地域福祉を推進していくための、56の”具体的な取り組み”がありまして、この資料の中で、それぞれの取り組みにつきまして、分析を行い、次期計画策定への展望を行っているということでございます。</p> <p>この「分析と展望」の資料ですが、基本的には見開きで1つの”具体的な取り組み”についての分析と展望を見ていただけるようにレイアウトしております。</p> <p>その関係で、字の大きさが大変小さくなってしましまして申し訳ありませんでしたが、順を追って、いくつか取り上げてご説明させていただきたいと思います。</p> <p>まず、9ページ、10ページをご覧ください。</p> <p>プログラムの1つ目の「安心して暮らせるまちづくり」という部分の「こころとまち全体のバリアフリーを実現します」の目標を達成するために行われている“具体的な取り組み”が、「交通、道路などのバリアフリーの実現を図り、すべての人が安心して移動できる環境を整えていきます」ということに対する分析と展望を行ったということでございます。</p> <p>見開きで見ていただきますと、右側に非常に多く「住民の意見」が記載されています。地域にお住まいの住民のみなさんがもっとも身近に感じておられる課題であったと思います。非常に関心が高く、ご意見をたくさんいただいております。</p> <p>またこの間実施してまいりました地域懇談会においても、このバリアフリーの問題は、どの地域においてもたくさんの意見が出されていた部分でございます。なかなか道路の段差の解消などについては、福祉部門だけで根本的な解決というのは難しい状況ではあります。地域福祉という部分だけで即解決ということには繋がっていかないとは思いますが、次期計画に向けてバリアフリーを所管する他の部門の計画も行政の中にはございますので、そういったところと密に連携して計画的な実施、整備を行政が中心となって進めてい</p>
------------	--

事務局	<p>くということが重要であると考えております。</p> <p>次に、17ページ、18ページをご覧ください。</p> <p>同じく1つ目のプログラム「安心して暮らせるまちづくり」の中の「防犯や災害時に備えた地域連携を進めます」という目標に対して行われている“具体的な取り組み”が、「災害時に自力避難が困難とされる人々への対応が速やかに行われる、日常的な福祉の防災体制づくりを進めます」という部分に対する分析と展望ということでございます。</p> <p>やはり先ほどのバリアフリーと同様、近年大きな災害も起こっていることから、防犯、防災に対する地域の住民の方々の関心も非常に高くなってきているというように見受けられます。</p> <p>いま作成しておりますアンケートでも、宇治市の危機管理課で進めております「災害時要援護者避難支援」の取り組みを「早急に進めてほしい。」というご意見も確かにございました。ただ一方で、この委員会の中でもよくご議論いただいておりますが、個人情報の取り扱いについて大変不安視するというご意見も多くございました。これは防犯、防災という部分に限らず、いろいろな地域の福祉の活動でも大きな壁になっているということによく出されている意見でございます。</p> <p>この部分につきましては、「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」という厚生労働省でまとめられた報告書がございまして、その中でも「災害時要援護者避難支援のより具体的な方策を地域福祉計画の中に盛り込むべきである。」ということが示されていることから、次期計画の中では、より具体的に位置づけをしていく必要があると考えております。</p> <p>次に35ページ、36ページをご覧ください。</p> <p>2つ目のプログラムの「地域福祉活動への住民参画の推進」という部分の「ボランティア活動を活発にします」という目標に対する“具体的な取り組み”が、「手助けする側・される側のニーズを合わせる仕組みづくりや気軽に参加できる仕組みづくりを検討します」という部分です。</p> <p>この部分につきましては、次の計画に向けて非常に大きな柱になるのではないかと考えております。いま、この資料にも記載させていただいておりますが、学区福祉委員会、社会福祉協議会、宇治市福祉サービス公社、行政、それぞれの立場、それぞれの役割において、いろいろな事業を実施されておりますが、なかなか結びついていないというような現状があるようです。</p> <p>たくさん事業を実施されている中、なかなか人が集まらないという声もお聞きしますが、一方で住民の意見の中で、地域にはボランティア活動に参加意欲を持った方が必ずいらっしゃるということがわかってきました。</p> <p>35ページの上に「展望」を記載させていただいておりますが、次の計画の中には、いろいろな活動や事業に参加していただけるきっかけや、気軽に参加していただける仕組みづくりが非常に重要になってくるのではないかと考えておまして、次の計画の重点課題になると考えております。</p> <p>次に39ページ、40ページをご覧ください。</p> <p>3つ目のプログラム「ゆるやかな支え合い」という部分の中の「住民の主体的参加・参画による取り組みの支援をします」という目標に対して、「これまで地域づくりを推進してきた学区福祉委員会をはじめとした様々な組織や個人が連携し、高齢者や子育て世代</p>
-----	--

事務局	<p>など、どの世代も気軽に参加・参画できる仕組みづくりを進めます」という“具体的な取り組み”の分析と展望になります。</p> <p>この部分につきましても、先ほどの(35ページ、36ページの)ところと同様、「きっかけ」や、「気軽な参加」、そしてこの中に出てきました「住民の方に対する働きかけ」を望む声が、&lt;住民の意見&gt;でもたくさん見られました。</p> <p>右側40ページで記載していますが、&lt;住民の意見&gt;の中には、「若い世代が気軽に参加できるような様々なきっかけづくりに力を入れてもらいたい。」という具体的な意見も見られました。</p> <p>先の部分と同様、次の計画の中でこの部分は、大きな柱となる重点的課題となるのではないかと考えております。</p> <p>次に58ページをご覧ください。</p> <p>こちら3つ目のプログラムの「ゆるやかな支え合い」というプログラムの中の4番目の「地域福祉推進のための人材育成を積極的に進めます」という目標に対して「福祉の受け手も担い手」として、お互いに支え合うための地域福祉の人材育成を図ります」という部分に対する分析と展望になります。</p> <p>これまで、懇談会等で「地域福祉の人材の確保」については、どの地域でもやはり大きな課題になっているという認識をしております。また、それを解消していくためには、いま団塊の世代で会社を退職され、これから地域に帰ってこられる方々や、特に若い世代の方、男性の方、そういった方をどのように地域の活動に取り込んでいくのか、そこが大きなポイントになると考えられます。</p> <p>そういった方をうまく繋いでいけるような仕組みづくりを次の計画では考えていくべきではないかと思っております。</p> <p>次に79ページ、80ページをご覧ください。</p> <p>5つ目の「安心して利用できる相談や福祉サービスの情報提供」というプログラムの中の「情報収集と情報提供体制を構築します」という目標に対する“具体的な取り組み”が「身近な地域に関する総合的、横断的な情報収集や情報提供ができる仕組みづくりを構築します」という部分に対する分析と展望になります。</p> <p>こちら先ほどの「きっかけ」や「気軽な参加」と同様に、次の計画の大きな柱となるところではないかと考えております。</p> <p>79ページ、80ページに記載させていただいておりますように、学区福祉委員会でも「広報紙発行事業」や、社会福祉協議会、もちろん行政でも、いろいろな事業を実施しておりまして、たくさんの情報が発信されております。学区福祉委員会でも全戸配付されているということも聞きしています。</p> <p>ただ、右側80ページの&lt;住民の意見&gt;では、残念ながら「福祉に関する情報が少ない。」とか、「具体的にどういうことをしたらよいのかよくわからない。」という意見があります。また一方では、「気軽にできるボランティア活動の情報を常に発信してほしい。」という意見もありました。</p> <p>ですから、いまのところ、実施されている事業や活動の広報や、情報提供が、地域に住んでおられる住民のところまで、うまく届いていない現状があります。</p> <p>たくさんの情報を発信することも大事なことです、それだけではなく、住民の方にとってわかりやすく、それを発信する仕組み、取り組みが必要ではないかと思います。</p>
-----	---

事務局	<p>この部分に関連しまして、前回1月の推進委員会の中で、委員の中からご指摘、ご提案がありました件でご報告させていただきます。</p> <p>アンケートの結果からも福祉の情報やいろいろな情報を取り入れるのは、宇治市が発行している「市政だより」から取り入れているという意見が多くありました。そういうことから、その市政だよりに「学区福祉委員会の募集の記事を載せてみてはどうか。」というご意見をいただいておりますので、先日3月11日号の市政だよりに、紙面の記事の関係で、(募集に関する)記事は若干小さめになってしまいましたが、学区福祉委員会の委員募集ということで一度広報をさせていただきました。</p> <p>問い合わせ先は社会福祉協議会にしておりましたので、先週末になりますけれども、社会福祉協議会にお聞きしましたところ、記事掲載後、3人の方からお問い合わせがあったということをお聞きしました。そのうちおひとりの方は、電話があった時点で「学区福祉委員になりたい。」ということでお問い合わせがあったそうです。小倉の男性の方ということです。</p> <p>ひとは学区福祉委員会に参加され、あとのおふたりの方については興味があるということでしたので、各学区福祉委員会の委員長にお繋ぎして、委員長から連絡していただくということでした。よく見られる市政だよりに記事を載せるということはある程度効果があるのではないかと考えておりますので、継続した市政だよりの記事の掲載をしていきたいと考えております。</p> <p>次の計画でも、このようなわかりやすい広報ができれば一番よいと考えておりますので、取り組むべき部分であると考えております。</p> <p>かいつまんで説明ということになりましたが、現行の「宇治市地域福祉計画 分析と展望」につきましては以上になります。</p> <p>本日、推進委員会の委員の皆様方から、次期計画に向けた展望の部分を中心に、ご意見、ご提言いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>説明は以上です。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>「宇治市地域福祉計画 分析と展望」ということで、&lt;住民の意見&gt;を対象としながら、分析と展望を行っていただきました。</p> <p>それでは、いまのご説明に対して、何かご指摘、ご意見がございましたらどうぞ。</p> <p>お気づきになることがございましたらどうぞ。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>いくつかのキーワードがあるように思います。</p> <p>若い世代にどのように呼び込むかということがあります。少子化ということもあります。結婚しない理由の中にはそういうようなことの煩わしさもあるわけです。だから現在若い世代で、子どもを産んで育てている方たちというのは貴重な社会資源、財産だと思えます。</p> <p>きっかけや気軽に参加するには、日常的なこと、日常性が問われるのだらうと思えます。ですから日常的な生活とあまりにも離れたところでは、そういうことが浸透していきにく</p>

<p>委員</p>	<p>いので、日常的生活から少し踏み出せば、そこへ入っていけるような仕組みというのが、重要だと思いました。</p> <p>「(ボランティアの)受け手」「担い手」とか、「発信をもっとしてほしい」とか。</p> <p>「受け手」と「担い手」ということは、「発信者」イコール「受信者」で、「受信者」イコール「発信者」というような関係をつくるということだと思います。そういうことから考えると、私はつい、子育て支援の立場から考えて話をしてしまうのですが、保育所という「施設福祉」とこの「地域福祉」とが、どのように結びついていくのかというのが、非常に(興味深い)テーマだと思っていて、保育園でも、A保育園、B保育園、C保育園と全然違うわけです。もともとのベースにある日常的な保育ということと、それ以外のオプション的にやっている活動内容は、それぞれたくさん異なっていて、その辺りで、福祉に貢献していきたいというビジョンとか、それをどのように絞り出していこうという英知であるとか、そういうことがそこに来るのだらうと思っています。</p> <p>公立ではなく、民間の社会福祉法人では、足並みのばらつきがあって、ここは地域福祉と非常に絡んでいける場所ではないかと思っているわけです。</p> <p>例えば、私のところの園では「地域ひろば」という、宇治市の子育て支援の施策を実施している団体に場所を提供したり、民生児童委員協議会が開催しているサークルに保育士を派遣したりしています。これはすべての園が行っているわけではなく、やっているところ、やっていないところ、いろいろあります。また、いま私が言いましたが、全然違う観点で、その地域の特色に合わせて実施されているところもあると思います。これはネットワークの、さらに細かなミクロのところ、いろいろなことがきつとあって、ちょっとしたことですぐに繋がり合えるようなことになるのではないかと思っているわけです。</p> <p>若い世代をこういう福祉の分野に参入させていくためには、そこをうまく活用していくような仕掛けや、ちょっとした手立てがあるといいのではないかと感じておりました。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。大変貴重なご意見でした。</p> <p>子育て支援に関わることで何かコメントはございますか。いまのご見解に対して。</p>
<p>委員</p>	<p>私も先ほどご発言の委員と同じように、「気軽に参加したい。」という範囲で参画したい人がたくさんいらっしゃるということが、この(分析と展望の)資料の文章を読みながら感じたのですが、いま一番難しいのは、人と人を繋いでいく仕掛け人づくりとか、きっかけづくりをして継続していくことだと思います。</p> <p>保育所などいろいろ地域のことを考えて事業を実施してくださっているところもありますが、日常の業務もありながらそういうことをしていただいているわけです。こうやって本当に個々は努力していると思うのですが、その力を集結する場所がなく、福祉コーディネーター業務として子育てサークルでも、「高齢者の地域のサロンのところに講演にいきたい。」という情報が昔にあって、私が社会福祉協議会で仕事をしていたときにお伺いしたことがありました。いろいろなことを思っている方はいらっしゃるわけですが、やっぱり地域の活動に携わっておられる皆さんが、そのマッチングやコーディネートを継続していくことが、一番大変だということをご存知だと思います。</p> <p>でも現場に携わっている方は細かなマッチングができる人であって、一般の人がボランティアをしたいとなったときに、それをコーディネートしていく人というのはやはり仕事でないと思っていけないと思います。その仕事としてする人は地域情報を持っていないとできないということがあります。</p> <p>学区福祉委員会の方は学区福祉が得意だろうし、NPOは分野的に得意な部分を</p>

委員	<p>持っているだろうし、この地域性を持った人たちと、得意分野を持ったNPOがうまくマッチングされるような仕組みづくりがこれから求められるのではないかと思います。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員長	はい、どうぞ。
委員	<p>社会福祉法人の場合は、わりと持続性をもって実施するのはできると思うのです。一方で市民レベルの情熱的な活動では、お互いにウィンウィンの関係をつくることのできるのではないかと考えていまして、地域福祉コーディネーターみたいなものが、望むところの団体に、例えば学区福祉委員会のような団体でもいいですので、そういうところに繋ぐため人材として配置されるというのは、非常に私は期待するところです。</p>
委員長	はい。いまのご意見に関して、いかがでしょうか。
委員	<p>現状は、社会福祉協議会というのがコーディネーター役になっていると思うのですが、それぞれ職場の中で縦割り化していきまして、横に繋ぐというか、隣に座っている職員の双方の情報交換などもできていないのが現状です。個々の職員は一生懸命やっているのですが、ちょっとした日常的な会話の中から、きっかけなり発案というか、そういったものがなかなかできておらず、その担当業務のところまで終わってしまっている状態です。各コーディネーターと地域と協働できる場所づくりを考えて、思ってもコーディネーターだけでは無理ですので、地域の人たちと協働できるような場所づくりをしていければと思います。ただし、いまのままではなかなか縦割りの状態できっかけをつくれないう状態ですが、ちょっと後ろ向きの発言になりますが、いまの現状です。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>社会福祉協議会は、やはり横に繋ぐというのが任務ですのでよろしくお願いします。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>いまコーディネートのお話が出ていますが、このコーディネーター自体が、我々、ここにいらっしゃる委員のみなさんがメンバーだと思うのです。</p> <p>私個人も、縦割りを横に繋ぐというのは大事なことだと思いますが、このきっかけが非常に難しいと思います。いまの委員が言われたように、自分のことで精一杯というのが現状です。他の団体等と協働するというのは本当に大事なことで、私は西小倉にありますが、たまたま私はコミュニティ推進協議会の方でも活動しておりまして、西小倉以外の17団体で活動しています。この17団体が足並みをそろえるのは大変なことでありまして、平成22年度の展望というか、目標として大事に掲げていきたいと思っています。</p> <p>それからもうひとつですが、市政だよりの学区福祉委員会のボランティアの参加ということで、たまたま私の方に、社会福祉協議会からひとりの方の紹介がありまして、最初は電話対応だけをして、適当なときに一度お目にかかっているいろいろなこととお話したいと申し上げたところ、30分くらい経ったところで(私のところに)来られて、私も慌てたような次第です。</p> <p>私のところの具体的な例で申し上げますと、ちょうどいま西小倉学区福祉委員会の活</p>

委員	<p>動内容を網羅した写真展をたまたまコミュニティセンターでやっておりまして、それをご説明かたがた一緒にしていたのです。単なる福祉委員ということではなくて、いろいろな団体との繋がりのことを前に出しまして、ご説明しました。</p> <p>我々の(学区福祉委員会の)人事が年度変わりでございます、4月の上旬になれば落ち着いた体制になると思いますので、それからもう一度お目にかかります。</p> <p>((事務局に対して)学区福祉委員会の募集記事で)応募されたのは4名ですか、3名ですか。</p>
事務局	3名ということです。
委員	<p>3名の応募が市政だより(の募集記事)からあったわけです。</p> <p>この募集記事の掲載を切ることなく継続して、むしろ活字もどんどん大きくしていただきたいと思います。継続して市政だよりによってどんどん載せていただきたいと思います。特にお願いしたいと思います。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員長	はい、どうぞ。
委員	<p>この&lt;住民の意見&gt;を読ませていただいておりますら、非常に皆さんやる気があるといいますが、さまざまな形で「地域の福祉に参画していきたい。」という、そういう思いをいろいろな方が表明されております。</p> <p>このやる気をいかに、きっかけに結び付けていくということが基本的な課題であることも、ご指摘いただいたとおりでございます。</p> <p>いまの話と少し関連すると思いますが、発想を大きく変えていく必要があるのではないかと思います。つまり、学区レベルではなく、もうひとつ小地域でのきめ細やかな情報発信、情報受信を、人を介して行っていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>具体的にいいますと、「1丁目」「2丁目」の「丁目」の範囲で、100軒くらいのレベルに10人くらいで、例えば仮称で、「地域共生推進委員」のようなことをお願いしていくということです。役をお願いしておきますと、それなりの自覚もできますし、そういう方に情報のハブの機能を担ってもらおうということです。「できますよ。」「お願いします。」あるいはチョボラにつきましても、情報を交差していただくとか。その場合に、重いものでありますと、いままでの地域リーダーのイメージになりますので、本当に忙しい人もできるようなもの、あるいは高校生も担えるようなもの、そういうイメージで、そういったことを小地域レベルでお願いしていくことも考えていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>とにかくこれだけ皆さんやる気をもっていらっしゃるのですから、この気持ちをどう受け止めていくかということに対して、具体的に答えを出していかないと本当にもったいないと思います。以上でございます。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員長	はい、どうぞ。
委員	いま委員がおっしゃったように、私のところは、学区が菟道小学校区で広いです。白川



委員	<p>も入るし、善法も入るし、宇治橋のところまで、宇治上神社がありまして、いわゆる小学校のところまで1班、2班の登校の班など分けられているわけです。地域性が違うわけですよ。白川は白川の事情、私のところは善法で善法の事情があって、(地域によって)違うわけです。私はNPOにも所属していますが、地域内で「人権と福祉のまちづくり推進委員会」を立ち上げまして、今日資料にのっているような形でいろいろとまちづくりをやっています。</p> <p>300世帯の小さな地域ですので、ひとつの単位でまちづくりを行っています。</p> <p>そこでは、もう少し地域の住民が「いろいろな意見の中で参画していきたい。」という意見が多いです。学区レベルで分けると(範囲が)大き過ぎると思います。やっぱり町内会くらいの規模で行っていると、町内で会議をしたり、いろいろなことをやらせられると思うのです。もっと細かくしていければいいのではないかと思います。</p> <p>これからは社会福祉協議会の中での(地域の)割り方と、地域性によって細かく割っていくということを考えていった方がよいと思います。実際(地域性によって)できないということもあると思うのです。その辺りを今後の連携の中で考えていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>はい。貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>やはり、いまのご意見でも出ておりますように、学区レベルではやや広いということです。もう少しきめ細かく小地域で、いってみれば「ご近所福祉」の範囲くらいです。そういったことを組み込む必要があるのではないかと思います。第2期のキーワードのひとつになるかと思えます。ありがとうございます。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>私から2点あります。</p> <p>1点目は先ほどお話がありましたように、学区福祉委員会の委員募集の記事を3月11日号の(市政だよりの)広報に載せていただいてありがとうございます。</p> <p>特に感謝したいのは、いわゆる行政の対応が非常に早かったことです。早速3月11日号に「学区福祉委員の募集」ということを載せていただきまして、その辺のところを感謝申し上げます。</p> <p>そしてもう1点は、先日お送りいただきました「分析と展望」の資料で直して欲しいと思うところがありますが、よろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>どうぞ。ご指摘ください。</p>
委員	<p>簡単に申し上げますと、35ページです。</p> <p>この「分析」の部分です。「地域にはボランティアへの参加意欲をもった人が必ずいるため、仕組みづくりと広報～」で、「広報」を入れてはどうかと思います。</p> <p>次は38ページです。</p> <p>「分析」の部分で、「地域の企業に対する働きかけについては、取り組みが進んでいない」と書いてありますが、「(地域の企業に対する働きかけについては、)取り組んだところであり、あまり進んでいない」という表現にしたほうがよいのではないかと私は思います。</p> <p>それから39ページです。</p>

委員	<p>「分析」の1行目です。  「地域では」の後に、肝心の「民生児童委員」が抜けているのではないのでしょうか。  「民生児童委員」を入れていただいて、あと「学区福祉委員会をはじめとした～」という形で続いたほうがよいと思います。実際に、そのように活動をしていただいていると思います。</p> <p>それから45ページの「展望」の部分です。  「展望」の真ん中の行の“となり近所”という言葉、“向こう三軒両隣”に変えたほうがよいのではないかと思います。</p> <p>最後に47ページです。  「分析」の1行目で、「学区福祉委員会では、伝承あそび」それともう一つ「子どもの見守り活動」があります。「(学区福祉委員会では、)伝承あそびや子どもの見守り活動などにより、地域の小・中学校との世代間交流が行われている」にしてはどうかと思います。</p>
委員長	<p>細かいご指摘ありがとうございます。  ご指摘のとおりだと思います。</p> <p>ほかにございますか。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>いま菟道学区の範囲が非常に広いというお話がございました。  私も以前宇治学区福祉委員会の委員長をさせていただいていた経過がございます。宇治小学校区も東西に2.5キロメートルほどあります。非常に広い範囲でございまして、同じことが菟道第二小学校区でもいえると思います。線路を挟んでいて、線路によっていろいろと変わりますので、その辺のところと同じ思いがあって、原委員と同じ意見かと思っています。</p> <p>宇治学区福祉委員会では小字別にブロック制をしいています。その中でそれぞれが活動してもらうということで、その中の地域性を重んじているのです。</p> <p>中でも大和田ブロックは、月2回の配食の事業をやっております。これは宇治学区福祉委員会の中でも、大和田ブロックだけが配食の事業を行っているということで、まさにブロック制をしいているからこそできることだと思います。</p> <p>そういうことも今後、やはり広い学区については考えていかなければならないのではないかと思います。</p> <p>もうひとつは、これから何よりも大切なのは、先ほど市政だより(の広報)で3人の方から問い合わせがあったということですが、その人たちが、入っていただいた学区福祉委員会の中で、きっちりと活動ができるような学区福祉委員会づくりをしなければならないと強く思います。</p>
委員長	<p>はい。貴重なご意見ありがとうございました。  いろいろな前向きなご意見をいただきましてありがとうございます。</p>

委員長	<p>「分析と展望」ということなのですが、肝心の「評価」のことです。「評価」を見ていますと、「A」評価、「B」評価とありまして、「B」評価が多いような気がします。「C」評価もありますが。</p> <p>(事務局に対して)評価全体としては、どのように理解したらよろしいでしょうか。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>市民委員の方で、新しいメンバーがいらっしゃいますが、まだ一度も発言されていないと思いますので、ご意見を伺いたと思います。</p>
委員長	<p>はい。全員発言していただく予定ですので。</p> <p>(委員、挙手)</p>
	<p>はい。どうぞ。</p>
委員	<p>市民委員として出席させていただいています。</p> <p>何度か発言させていただけたらと思ってお話を聞いていたのですが。</p> <p>当初のテーマで「若い世代を何とか(取り入れていきたい)」というのは、私や隣にいる委員が、まさにその世代だと思いながらご意見を聞いていました。</p> <p>いま私の親がちょうど62歳になります。その世代や、もしくはもうひとつ上の世代の方が中心になって地域福祉を担っていただいていると思うのですが、私自身親世代からそういうことを継承していません。その世代と私たちの世代とは、ちょっと線があるような、何か継承できない線があるように思いました。</p> <p>また、私たちの世代は意外に横の繋がりはたくさんあるように思います。それが携帯電話や、情報ツールが広がったというのもあると思います。意外と地域を超えて横の繋がりはあるように認識しています。</p> <p>ですから、まず親から子へ、しっかりそういうように繋いでもらえたら、違う広がり方を見せたいのではないかという印象ももっています。</p> <p>以前の委員会で、他の委員がおっしゃっていたように、ひとくくりにはできないかもしれませんが、私たちの世代というのは、若干“うまみ”があった方が入りやすいのではないかと思います。別に費用や、経済的なところではなく、子育てをしている人間が集まるときに、子育ての情報がもっと入ってくるということであれば、入りやすいように思います。それに加えて、先ほど委員がおっしゃっていましたように、役としてあてていただいた方が、ある程度担っていける力は持ち備えているような気がします。</p> <p>役として与えてもらえると任務として、命じられて、その中で横の繋がりを発揮して、自分たちにもメリットのある情報が入ってくるような活動に繋がれば、私たちの世代は入っていきやすいと思います。いまの状況では、なかなか手を挙げて私たちから入っていくというのは、しにくい状況のような気がします。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>私も市民委員です。発言の機会をいただきましてありがとうございます。</p> <p>この「分析と展望」を全部読んだのですが、宇治市だけではないかもしれないですが、</p>

<p>委員</p>	<p>「治安に対する不安」と「居場所づくり」が大きいと思います。ただ、居場所を提供しても、本当にそこへ結びつけてくれる人がいなくなかなか出て行くことができないですし、私たちは団塊のジュニア世代ですが、子育てや仕事でとても忙しいのです。居場所があっても、そこに出て行く動機がないと、誰も出て行けないと思います。子どもを育てていると近所との繋がりがないので不安だという気持ちは非常にあります。同じようにお年寄りの方も、独居であると、周りの繋がりがないと不安ですね。そういったところを何とか繋げられないかと日々思います。一人暮らしのおばあちゃんのところへ行くと、「今日も元気ですか。」と声をかけてくれるだけでもいいと思うのです。子どもの仕事として、自分の役割としてやってもらうのと、子どもにとっても、近所のおじいちゃん、おばあちゃんの顔を知ることで見守られているということだということで、ギブアンドテイクの関係をきちんとつくらなくて、片方だけの奉仕のような福祉をしていくと全然繋がらないと思います。きちんとギブアンドテイクで成り立っているのだというように進めていかないと、いつまで経っても近所福祉すらなっていないように思います。私もいま住んでいるところで、向こう三軒両隣くらいは知っていますが、通りにどれだけ高齢者がいるのか、子どもがいるのかというのは見えてこない状態です。そこを繋いでいける狭い範囲でのボランティアがいれば、もう少し地域が活性するのではないかと考えています。</p> <p>その辺りに力を入れていただければ、私たち子育て世代と高齢者世代がうまい具合に繋がっていくのではないかと考えています。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>いまの(ご意見の)ような若い人たちが積極的な意向をもっておられますので、その受け皿といいますか、迎え入れる仕組みなどを、例えば学区福祉委員会で工夫していただくとか、福祉委員が担っていくとか、いろいろあると思いますが、ぜひその辺りをやっていただければと思います。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>はい。どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>「若い世代をどう育てていくか」というのも大事だと思います。現職のころに、学校教育でこういった福祉の問題をきっちりと位置づけて、子どもたちに福祉の問題を教えていたことがあるのです。</p> <p>例えば、亀岡のほうに盲導犬訓練所があります。盲導犬を連れてきていただいて、小学校で講演会を開催したのです。非常に好評でした。</p> <p>もうひとつは、実際に車いすの体験学習も行いました。段差がどれだけ苦しいものであるかということも小学生に体験させました。</p> <p>もうひとつは、目をつむって、実際に音だけを頼りにして歩かせてみました。目の不自由な方についてはいったいどれだけ不自由な思いをされているのか、小学生の段階でしっかりと教えてきました。これは過去のことを申し上げているのですが。</p> <p>中学校でも、体験学習で老人ホームなど、いろいろなところに体験で行っていると思います。</p> <p>小・中学生あたりに、こういった福祉の問題を、カリキュラムの中にしっかりと組んでいただいて、指導していくのは非常に大事だと思います。</p>

委員	以上です。
委員長	<p>学校教育との連携は非常に大事なことでございます。ありがとうございました。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>それでは、どうぞ。</p>
委員	<p>私もこの(分析と展望の) &lt;住民の意見&gt; をずっと読ませていただきましたけれども、本当にたくさんの方が、「地域福祉に関わりたい。」とか、「ボランティアに関わりたい。」という思いをもっておられます。その熱意に驚いているのですが、宇治市福祉サービス公社での事業の失敗談みたいなことになるかもしれませんが、よく団塊の世代の人、この2年くらい前から第一線を退かれた方が多いのですが、そういう方々を中心にいろいろな取り組みをしようということで事業を実施しています。例えば、健康づくりであったり、スポーツに関することであったり、場合によっては経済的な「株のことも勉強しよう。」とか、いろいろな取り組みをしているのです。いわゆるお客さんとしては参加をしていただくのですが、私たちも参加生に対して、NPOまではいかなくても、グループをつくって、例えば料理教室でしたら、「サークル」ということで、料理教室をさらに発展してほしい。」とか、経済的な学習をするとか、スポーツをするなど、しきりにいろいろな誘いはしているのです。けれども、個人としては参加されるのですが、自分たちが5、6人集まって、講座が終わった後自主的に取り組んでいこうかということになると、残念ながらできていないというのが実情です。</p> <p>私たちの仕掛けが悪いのかどうかということですが、ひとつには居場所づくりといいますが、まさに物理的な活動する場所がなかなか見つからないということがあります。ちょっと5、6人集まって話し合いをするという場所そのものがなかなか現実的でないというのがポイントだと思っています。</p> <p>詳しいことは忘れてしまいましたが、生涯学習センターで何年かに渡って実施されたいろいろな講座の受講生が集まって、自分たちで自主的に「大学」とか、「学校」であったか、詳しい名前は忘れましたが、そういう自主的な取り組みをされているということをお聞きしていますが、いずれにしろ、熱意をどのようにまとめて、どのようにくみ上げて、それを自主的に(取り組まれるのを)待ってあげばよいのか。具体的に誰かが仕掛けをするとか、その辺り、私は強力な何か仕掛けをしないとなかなか(うまく取り組みが進んでいかない。)、待っていても、理論だけでは、進まないのではないかというような反省も含めて感想をもっています。余分なことを言いましたが、失礼しました。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>生涯学習で学習したことから、行動にどう結びつけていくかということは、大事なことだと思います。</p> <p>先ほどの分析と展望について、すべての委員の皆さんにご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>連合育友会から参っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>我々小学校、中学校の保護者ということで、あまり深く関わらないような部分なのかなと思いますが、子どもたちはいま学校や地域の方に遊びとか、ソフトボールを習うなど、い</p>

委員	<p>ろいろお世話になっております。</p> <p>たまたまですが、昨日町内の寄り合いがありまして、ちょうどいま(話に)出ていましたが、一人暮らしのお年寄りの方が、災害の起こったときにどうするのかということで話し合いをしていました。民生児童委員の方たちには「(一人暮らしのお年寄りが)ここに居はるよ。」ということ調べてもらっているということですが、実際に災害が起こったときには、向こう三軒両隣の範囲で、お互いに「隣のお母さんが逃げられたのだろうか。まだ家に居るのだろうか。」ということ、気をつけていかないといけないという話をしていたところで、町内でも、自治会長がそういう名簿を持っておくという話が昨日も出ていましたが、個人情報の関係もありますので、実際に名簿は封筒に入れて、きちんと三役で確認し合って封をして、それを持ち歩く。普段という形ではなくて、自宅で保管しておこうという話をしていました。名簿には、(一人暮らしの人が)どこにおられるのか、また普段寝ている場所、例えば「2階のどの部屋」という図も、そこに書いておいたらよいのではないかとか、たまたま昨日話をしていましたので、これ(分析と展望の資料を指して)を聞きながらそうだなと思っていました。中には隣に誰がおられるのか分からないようなところもあるようですが、そういう時代だからこそ、知ってもらっておく方がよいのかなと思います。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>次の委員どうぞ。</p>
委員	<p>皆さんがおっしゃっていることはとても勉強になりますし、特別な意見というのをもっているというわけではないですが、皆さんとは違って、私の思っている小地域というのは、自治会程度の小地域を考えておりまして、一年半前に Hot ! ふれあいサロンをはじめました。それを立ち上げたときに、果たしてどれくらいの方が集まってくれるのか、と思ったのですが、最初に集まってくださったのが、先ほど話が出ていたボランティアの意識を持った方たちでした。自治会の役員などは、「お前やれ。」「誰やれ。」「みたいにもめていますが、Hot ! ふれあいサロンに関しましてはどなたもそういうご意見の方はいらっしゃらなくて「やる事はやります。」とおっしゃっていただいております。70歳以上の方でも「私はボランティアの仕事をしたい。」と参加してくださっています。「遠くまではいけませんが、近くならやれるのではないか。」という意識の方もたくさんいらっしゃると思います。やっぱり人間は、きちんとコミュニケーションをちゃんと取れてさえいれば、地域はまだ捨てたものではないということは思っています。</p> <p>先ほど若い(委員の)方のご意見があったように、学区福祉委員会でも、研修会や学習会ということを昨年たくさん行いましたが、それが福祉委員で止まってしまうのです。その内容なり、情報が、お隣にも伝わらないし、ご主人にも伝わらないし、子どもさんにも伝わらないし、というところで途絶えてしまって、「何とかしたい。」というも思っていたのですが、Hot ! ふれあいサロンの中で少し話題を提供する中で、みんなで盛り上がり、そのお話ができて、「じゃあ、今度こんなことをしたらどうだろう。こんなことも要求してみたらどうだろう。」という話まで進んでいます。</p> <p>いま一番話題にあがっているのは、「何か災害が起きたときにどうするか。」ということです。福祉委員として私たちに何ができるのかということ、その方たちに情報を流すこととか、「行政のこの窓口に行ったら、こんなことを教えてくれるよ。」ということをお知らせできればと思っています。私たちの地域は、宇治川が決壊すると沈む地域にありまして、明らかに沈むとわかっていますので、「何かあったときに足の不自由な方とか、お一人暮らしの方をどうしたらよいのか。」ということについて、80歳を過ぎたおばあちゃんまで考えてくださっていま</p>

委員	<p>す。とてもうれしいです。 それをどうしたらよいのか、ということがいま私の中の課題であります。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>はい。地域防災に関わるご意見でした。  (委員、挙手)</p>
委員	<p>私は、先ほどからのご意見をいろいろお伺いして、いろいろ思っていたところで、あまり取り留めない話になるかもしれませんが。 この(分析と展望の)冊子を読んでいると、「私もボランティアをしたい。」「私も福祉に参加したい。」というご意見がすごくたくさんあって心強いなということを私も感じていました。 コーディネートするということはとても大切なことだとは思いますが、この(意欲のある)意見をもった人たちが、どうやって参加するのかというときに、いろいろな広告のようなもの、チラシや市民新聞もそうですが、皆さんの目に留まるようなもので配付したのを見るというのが一番多いのではないかと思います。あとはラジオを通じてとか、やはり広報活動というのはすごく大事ななと思います。 私はもう少しで60歳になりますが、自分自身も目が悪くなってきて、弱視のためのボランティアをしているのにも関わらず、自分に拡大文字が必要だと思ようになってきたのです。文字を見るときに、とても見やすい文字というのがやはりあるのです。ゴシック体にしてもらった方が、明朝体よりも見やすいです。チラシをつくるときに、そういうことを心がけてつくるのか。いま教科書がどのようになっているのか、皆さんあまりご存知ないかもしれませんが、とても絵が多くて、色刷りが多くて、楽しめるものになっています。ただ文字がずらずらと並んでいますと興味が湧きませんが、絵があったり、挿絵があったりするとぱっと目が留まります。こういうことがすごく大事なので、そういう情報ツールで、楽しめるもの、自分が引きつけられるものをつくる方も工夫したらよいのかなということをすごく思います。 それから、「男性の方がボランティアに参加してくれない。」と皆さんおっしゃいますよね。その人たちを引き止めるためにどうするのかというと、男の人へは仕事をつくることだということだそうです。 男の人の仕事をつくと、絶対に参加してくれます。女の方は、3人寄って、お茶があれば、ワイワイと話ができますけれども、男の方はそうはいつでも参加してくれないので、「この人にはこの仕事を願います。」というように繋ぎ止めるのが重要だそうです。 そういうようなことをすごく感じて、なるべくたくさんの方に参加していただける工夫ができればいいなと思います。</p>
委員長	<p>はい。大変貴重なご提案でした。  それでは、次の委員どうぞ。</p>
委員	<p>先程の話に戻ってしまいますが、子どもの支援についてですが、全体に見ていきますと高齢者のことが多くて、子どもの視野が少ないように思っています。 (分析と展望の冊子の)12ページの「地域子育て支援拠点事業」が「A」評価ということで、よく見ましたら4カ所できたということで「A」評価になっているのだらうと思います。形として概要は先ほどの委員がおっしゃったように、保育士がやっていたり、回数的にはでき</p>

<p>委員</p>	<p>ているのだと思うのですが、気楽に行ける場所としては4カ所では少ないのに「A」評価になっていることが疑問に感じました。</p> <p>地域で困っていると、実際に子育てが分からなくて悩んでいる人はたくさんいるでしょうけれども、そこに繋がらない。先ほどコーディネーターのお話がありましたが、コーディネーターをするためには、まず困っている人がどういうことで困っているのか、どういう方がそこにおられるのかというのを把握することが非常に大事なのではないかと思います。先ほどから広報の話もたくさん出ているのですが、場所も書いてほしいと思います。これだけよいことをされているのに、引き込んでいけるような対策をやっていただきたいと思います。</p> <p>私の知り合いで京都から東京へ引っ越されて、そこで赤ちゃんを産んで、育てておられる方がおられます。</p> <p>駅前に、行政が開設している誰でも行けるような場所があって、そこに(「地域子育て支援拠点事業」)にありますように、専門職の方、ベテランのボランティアの方がおられて、一緒に子どもと遊んでもらって子育ての方法を知るとか、絵本の読み方がわかるとか。時間も長いのでお弁当を持って行って好きなときに行けるということです。その方はもうお子さんが3歳近くになっておられますが、助かったということでした。全く知らない土地だったのに、そのように行きやすい場所にそういう施設があって、「全く知らないところだったのに私は非常に恵まれていた。」とおっしゃっていました。もう少し子育ての支援体制というのを充実してほしいと思います。時期的には、非常に短くて、その人個人にとっては、保育園に入るなり、幼稚園に入るまでのことで、それ以降は大丈夫だと思うのですが、その間の非常に短い期間のことなのです。その事業が浸透するまでに時間がかかっているのは駄目なのです。すぐにできるようなものが必要だと思います。少し外れたかもしれませんが。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ご指摘ありがとうございます。 では最後になりますが、次の委員どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>失礼いたします。学校教育の現場から出させていただいているということ、それから団塊の世代ということ、間もなくあと数日で定年退職を迎えるということで、この間感じてきたことを言わせていただきたいと思います。</p> <p>ひとつは学校において、福祉教育については確実に定着してきているのではないかと思います。先ほどからお話が出ていますが、盲導犬、車いす体験、アイマスク、デイサービスの状況、もっと他に言えば、地震のとき、いろいろな社会的な問題が起こったときの募金活動など、各小学校、中学校、高校など問わず、いろいろなところで、積極的にその動きが出てきているのではないかと考えております。</p> <p>したがって、これからは、これらの内容をさらに学校としてどう充実して、子どもたちに根付いた、息づいた福祉の教育ができるかということが、ひとつの課題だと思っています。</p> <p>もう1点は、学区福祉の話が出ておりましたが、私も菟道第二小学校に勤めさせていただいて、5年という少し長い期間を過ごさせていただきましたけれども、ちょうど赴任したころの状況を省みますと、社会的に、子どもをめぐるいろいろな事件が多発しておりました。ということで、校区においても、子どもを守る会という組織を作っておられまして、その具体的な活動をどう立ち上げるのかという中で、学区福祉委員会のメンバーの方、民生児童委員の方等々も加わっていただいてそういう動きをつくってきたわけでございます。そういう中で、いろいろな地域の諸団体がネットワークといいますか、繋がりをもたれました。具体的にいろいろな取り組みをしまして、学校の中へ入っていただいて、子どもたちの活動の場面に、いろいろ寄与していただいたということがございました。具体的にひとつひとつ</p>



委員	<p>挙げるのは避けたいと思いますが、そういった動きの中で私が思いますのは、菟道第二学区の活動のテーマでもあります、「ふれあい支え合いのまちづくり」ということが、確実に広がっているのではないかと、あるいは広がりつつあるのではないかとことです。</p> <p>したがって、いろいろな課題の整理は必要かとは思いますが、その評価も必要だと思いますが、年々その中で生まれている小さな動きというものへの評価も、もっと自信をもってやっていいのではないかと。そういう積み重ねが、大きな地域福祉の輪に広がっていくのではないかと考えています。</p>
委員	もう1点よろしいでしょうか。
委員長	はい、どうぞ。
委員	<p>私は菟道の方の自治会長をしています。470軒ほどです。立命館宇治高校のグラウンドがあります。以前の宇治高校のところ。また、110名ほどの寄宿舍があります。全国から集まってきました。</p> <p>2月29日に選抜高校野球の出場が決まりまして、これはまちづくりにとっても役立つと思えました。先ほどから出ていますように、縦割りではなく、横の繋がりを大事にしていこうということで、昔からの旧村地帯も随分ありますから、これをまちづくりに生かしていこうということで、すぐに役員会を招集しまして、地元としてこれを応援していこうではないかということで、何回も役員会をもちまして進めてきました。</p> <p>昨日も随分たくさんの人たちが甲子園へ行ってくれました。寄付金集めも、随分たくさん集まりました。行きのバス、帰りのバス、本当に横の繋がりで和やかな雰囲気でした。これは地域にとって、とてもよかったと思えました。帰りのバスでは、みんなが監督になったような気持ちで、どんどん声が出ていましたね。いい雰囲気で帰ってきました。試合もみんなで一糸懸命応援しました。残念ながら1点差で負けましたが、本当にまちづくりに生きました。私自身もあちらこちらにポスターを貼って、皆さん方が随分協力的で、よかったです。いい雰囲気だったと思います。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>以上、全員の皆さんから、非常に希望に満ちた前向きな元気の出るご意見をいただきました。本当にありがとうございました。</p> <p>特に、住民の皆さんの意見というのは、ご指摘のように、「何かしたい。」という人々が少ないわけ。それをどう繋げていくのかということが、今後の課題だと考えます。</p> <p>事務局に、先ほど私が尋ねておりました全体としての評価、「A」、「B」、「C」がありますが、全体の傾向としてどうだったかというのはいかがでしたでしょうか。「まあ、うまくやれた。」と見ていいかどうか。</p>
事務局	<p>「全体の」ということで、委員長よりご質問いただいておりますが、自己評価をさせていただく段階で、この委員会の中でも、自己評価になると少し甘い評価になるのではないかとご指摘も委員の方よりいただいていたわけですが、結果的に「A」から「C」の評価が多いように見受けられます。</p> <p>自己評価ですので、事業やサービスを提供する側からの評価になるわけですがやはり受け手側の方からのご意見、評価も要るのではないかとということもおっしゃっていただきましたが、そういう部分について今回「分析と展望」という形でお示しさせていただいた中で</p>

事務局	<p>は、たくさんの自由記述の意見をいただいておりますので、すべてではないかと思いますが、それが一定、住民の方からの評価になるのではないかと考えております。</p> <p>これで100%、いまの計画の評価ができたということではありませんが、今回こういう形でお示しさせていただいたということです。</p>
委員長	<p>いろいろな芽生えがあるわけですね。</p>
事務局	<p>特にいまおっしゃっていただいておりますが、決して悲観をするようなことばかりではなかったという気はしております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>全員の皆さんから、貴重なご意見、ご感想をいただきました。</p>
事務局	<p>それでは、次第の「団体ヒアリング・アンケートについて」でございますが、事務局よりご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>失礼いたします。</p> <p>それでは、次第「3 次期計画の策定に向けた取り組み」のうち「団体ヒアリング・アンケートについて」ご説明させていただきます。</p> <p>お手元の資料1をご覧ください。</p> <p>この度、市役所内部、それから社会福祉協議会、宇治市福祉サービス公社、それぞれの自己評価、アンケートで集まりました市民意見、それらを踏まえまして、「現行計画の分析と展望」という形で集約させていただいたのですが、それに加えまして今後次期計画を策定していく中で、直接団体の方にもヒアリング、もしくはアンケートをとっていきたいと思ひまして、このような案を提示させていただきました。</p> <p>今後住民主体、行政と市民の方が協働で地域福祉を推進していく上で、それぞれどのような事業活動を展開していくか、また、どのような悩み、課題、今後行政に対して支援とか条件整備で望まれていることなどを明らかにしていきたいということで、この「目的」に書かせていただいております。</p> <p>ただ、団体といいましても、宇治市内で活動されている団体は、小さなものから市内全体にかかっているものなど、非常にたくさんありますので、ある程度絞り込みをさせていただきたいと思ひまして、2番目に「対象団体」の案を提示させていただいております。</p> <p>まずひとつは、こちらの「宇治市地域福祉推進委員会」です。各委員の皆様方におかれましては、もちろん公募の市民委員の方もいらっしゃいますけれども、一定ある団体を代表して出てきていらっしゃいます。ですから、その地域福祉推進委員会の委員になられている方の推薦の団体については対象とさせていただきたいと思ひます。</p> <p>それに加えまして、NPO、また当事者団体、当事者の支援団体、これは父母の会や家族の会といったところを想定としたいと考えています。</p> <p>あと、あまりに限られた地域だけでの小さい団体になりますと、線引きが難しくなってしまうので、基本的には全市的な活動を行っている連合組織を対象とさせていただきたいということです。</p> <p>その数はこれから出していこうと考えているのですが、あまりに数が多い場合は、ヒアリングですと時間的な制約もございますので、アンケートという形にさせていただこうかと考えています。</p>

事務局	<p>実施時期ですが、先日の作業部会でも出てきましたが、次期の作業部会が4月の下旬を予定しております。そこにおきまして、団体のヒアリングの内容を決定させていただきまして、5月中旬ごろをめどに実施したいと考えております。</p> <p>この団体ヒアリング・アンケートで集約しました内容を、今度の7月中旬に開催予定とさせていただきます。平成22年度の第1回宇治市地域福祉推進委員会におきまして、ご報告をさせていただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>「団体ヒアリング・アンケートについて」でございました。事務局のご説明に対して、何かご質問、ご意見等ございましたらどうぞお出しいただきたいと思っております。</p> <p>「このように実施した方がよいのではないか。」ということも含めて。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>それでは、どうぞ。</p>
委員	<p>ありがたいことです。アンケートの実施は結構なことだと思います。</p> <p>先ほど私が申した意見と重なるのですが、アンケートの項目の中にその団体がまちづくりにもっているビジョンや、行政支援を受けずに独自に行っている内容ですとか、それからボランティア等の受け入れですとか、それから場所の提供とか居場所づくりに貢献できるかの有無であるとか、そういうところを盛り込んでいただけるとありがたいと思えました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他に団体ヒアリング・アンケートに関してございますか。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>この説明の中で、当事者団体の要件のところですけども、3番目のところで、「全市的な活動を行っている連合組織とする」となっていますが、「全市的」に限定してしまうのがどうなのかと疑問に思います。</p> <p>一定の地域をエリアとしながらも非常にユニークな活動を展開されているところもあるかと思っておりますので、これに縛られてしまうと、せっかくユニークな活動をされているところもあるのに、どうなのかなと思っております。</p> <p>せめて「原則」とするくらいの方がよいのではないのでしょうか。多少ヒアリングの団体の対象が広がってしまう気がしますが、ご検討いただきたいと思っております。</p> <p>もうひとつ、ある程度地域福祉計画アンケートの目的はあるのですが、いま直面している地域福祉の課題を設定して、その中でヒアリングを生かしていくのかということをもう少し明確にした方が、(ヒアリングを)やる側、あるいは設問を設定するときに、思考しやすいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>はい。ご提案ありがとうございます。</p> <p>他によろしいでしょうか。</p> <p>(事務局に対して)少し弾力的に、対応していただきたいということだろうと思っております。</p>

委員長	<p>全市レベルの団体に限らず、ブロックあるいは地域で、非常にユニークな活動をされているところがあれば、積極的にそういったところを拾い出すということが、計画策定の材料になりますので、よろしくお願いします。</p> <p>他にございますか。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>とんでもない発言になるかもしれませんが、いろいろなことを根本的に考えていかないといけない時期に来ているように思います。</p> <p>特に宇治市は一時団塊の世代の方たちが、小倉や西小倉あたりを中心に増えてきた時期から、いまは大久保とか、木幡のあたりとかがすごく人口が増えて、御蔵山小学校がパンクをしていて、校区が変わるという事態がありました。大久保小学校でしたら1学年に5組から6組、御蔵山小学校区はそれより多いということですが、反面小倉とか、平盛あたりが(1学年に)1クラス、2クラスとかになっていて、集団がつくりにくくなっているということです。教育委員会の会議にも出ていますが、やはり学校全体の編成、組み合わせも変えていかないと成り立たないという現状に直面しています。それに伴って、学区福祉委員会の委員のあり方など、いまの既存の地域があるからそこを守るのではなくて、宇治市全体を見回して、どういう組み方がいいのかとか、エリア設定などを考えていく必要があると思います。どこかでひずみは出るだろうけれども、どこかで勇気をもって変えていかないといけない時期がきていると思います。</p> <p>ヒアリングの中でもその辺りで困っていらっしゃる方が出てきたら、拾っていただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>各団体は、団体活動を進めていく上で、いろいろ悩みとか、問題を抱えていらっしゃると思います。そこに、「それは何であるのか。」ということに照明を当てながら、「では、どうしたらよいか。」ということを考えていく必要があると思います。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>では、(ヒアリングの)実施時期は5月でしたか。</p>
事務局	<p>ヒアリング自体は5月の中旬を予定しております。</p>
委員長	<p>では、次の会議次第になりますが、「4 その他 ~ 今後のスケジュールについて」を、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>失礼いたします。</p> <p>それでは、次第「4 その他 ~ 今後のスケジュールについて」ということで、今後大まかなスケジュールについてお示しさせていただいております。</p> <p>まず1つ目ですが、この間作成をしております「くらしと地域福祉に関するアンケート」ですが、いま細かい修正を行っておりますけれども、3月いっぱいをめどに完成させる予定</p>

事務局	<p>であります。完成次第、委員の皆様のお手元には、郵送にてご送付させていただく予定にしておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それから、いまご説明の中にございましたけれども、4月下旬に、第4回目の作業部会を予定させていただいております。また日程につきましては、作業部会委員の方々にご報告させていただく予定にしておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それからその後、第4回目の作業部会において設問の内容や、対象団体など、詳細を決めさせていただいて、5月の中旬をめぐりに関係団体のヒアリングを実施し、その後6月中旬頃には次の作業部会の中で報告をさせていただきます。</p> <p>22年度第1回目の地域福祉推進委員会につきましては、いまのところ7月中旬を予定させていただいておりますので、できる限り早い時期に、ご連絡させていただければと思っております。</p> <p>説明は以上です。</p>
委員長	<p>何かいまのことに関して、ご質問ご意見等ございますか。</p> <p>はい。では全体のまとめをしますけれども、全体を通して何か言い残したことがございましたら、端的に述べていただきたいと思っております。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>全然関係ないことかもしれませんが、みんなから聞いてきてほしいと言われていることがあります。</p> <p>いまハローワークの窓口では一括して、生活補助のことなど、いろいろなことを一つの場所で行っていただけるということです。それが社会福祉に関して市役所の場合ですと、全部ばらばらになっていますよね。例えば介護認定を受けるときには「こちらに行ってください。」とか、生活保護を受けたいときには「こちらに行ってください。」とか、ひとつの窓口で用が済むのなら、お年寄りにとっては市役所に行くだけでも大変で、私どもの地域は市役所へ行く足がない地域ですので、行くことも不可能なところへきて、あちこちへ回されるのは困る。どこか1カ所で世話をしてくれるところはないのか。」というように聞かれておまして、実際にそれはあるのかどうかというのと、いずれそういう場所をつくっていただけるのかどうかというのをお聞かせいただければと思っております。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>(ハローワークの)ワンストップサービスということですね。事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>議会でも「総合窓口化ができないか。」というようなことをおっしゃっていただいているのですが、福祉関係だけでも、非常に複雑で、毎年仕組みが変わるということで、例えば障害福祉などでは、自立支援法の関係で細かい制度になりましたし、またそれに上乗せする府の制度、それをさらに出す市の制度、それだけでもひとり(の職員だけ)ではしきれない状況にあります。高齢者福祉でもそうです。健康生きがい課を中心にやっておりますけれども、保健師、一般職を含めているいろいろな事業を数多くやっています。</p> <p>(委員が)おっしゃっている意味はよく分かって、統合的に説明できないかということで、ひとりではオールマイティな職員はいませんので、例えばひとつの窓口に来ていただいて、その中身によって、関係する担当者が出向いてお話ししたり相談したりするというのは、必ずしも不可能ではないと思っております。そういうことが、お年寄りに対してできるサービスなの</p>

事務局	<p>かなと思いますが、それはまだ全庁的に認知されたものではございませんので、例えば地域福祉計画でも、第1次の現計画の中でもちょっと触れていますので、その辺りをこの委員会で「そうするべきだ。」ということをおっしゃっていただければ、織り込めるのではないかと考えております。</p> <p>そういうことで、いま即ご回答できませんけれども、課題として捉えて(新しい計画に)記述して生かしていけるようにできたらと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>ワンストップサービスの調整も整っておりますし、他の自治体で取り組んでいるところもひとつ出てきております。そちらのほうも学びながら宇治市としての取り組みをぜひお願いしたいと思います。</p> <p>できれば我々の計画の中に、そういったことを盛り込みたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
部会長	<p>今日事務局で、作業部会長が来ていらっしゃいますが、皆さんの意見をお聞きになって何か感想等ありましたら、それから作業部会ではこういうことを中心にやっているということも含めてお願いします。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず今日いろいろお話を聞かせていただいた中での感想ですが、私自身も平成17年度から行われております地域懇談会にずっと参加させていただく中でいろいろ感じていたのですが、まずは学区福祉委員会を中心に地域懇談会の開催をしてくださっていて、そこで地域のいろいろな課題を出していただく作業をしていただいているわけですが、地域によってはいろいろなやり方で取り組んでくださっているわけですが、それを小地域に分けて地域懇談会に取り組まれた地域もあって、もともと私も小学校区よりさらに小地域というものを大事にしなければならないのではないかとということはずっと思っていることではあったのですが、そういうことを地域を回っていく中で私自身が実感しているところでした。</p> <p>今日も皆さんから小地域の活動を(進めていくべきだ)ということをおっしゃっていただきまして、それをどう盛り込んでいけるのかということを検討していく必要があるだろうと思っています。</p> <p>いままでの計画といていいのか、宇治市のイメージとしては、「まずは小学校区」が中心になっているような感覚が私にはありまして、市民の皆さんのお考えということになっていくと思いますので、それを改めてこの場でも「小地域」というキーワードが出ましたので、そういう形で進めていく方向になるだろうと思っています。</p> <p>先ほども委員からお話をいただきまして、「福祉教育」ということもキーワードで出てきたと思いますが、各学校で取り組みは進んでいて定着しているお話で、少しずつ地域の方も入っていただいているお話がありましたが、やはり体験だけに終わらず、本当に地域と交流した形の福祉教育というものが展開できるのかどうかということもこれから検討していった学区福祉委員会で取り組んでいっていただけるのか、あるいは本当に地域にあるグループの皆さんと展開していただけるのかということも、検討していく必要があるように思います。</p> <p>そういう中で、住民の皆さんのご意見にあったような「参画したい意欲」に繋がられたらよいのではないかと感じておりました。以上が感想です。</p> <p>(委員長に対して)あとは、今後についてでしょうか。</p>
委員長	<p>作業部会としていまの取り組みについてお願いします。</p>

<p>部会長</p>	<p>はい。いま事務局からの説明がありましたとおり、ここまでは現在の計画の分析と展望ということで検討してまいりました。</p> <p>今後は、新しい計画に向けての展望をベースに、こういったことを盛り込んでいくのかということの作業になっていくと思いますが、現計画の評価作業をさせていただく中で、作業部会でそれぞれ(委員が)感じているところなのですが、現計画はかなり具体的で個別の活動が位置づけられていて、わかりやすいというのと、一方で「この活動もこれに繋がるのではないか。」ということなどありまして、そういったことを含めてもう一度検討し直して、まとめるというか、ひとつにできるものはひとつにするという作業を今後していく必要があるのではないかと考えております。</p> <p>それからプラスして、それだけではなく、時代も変わっていく中で新しく盛り込んでいかなければならないものも検討していく必要があるだろうと考えております。以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>今日のご意見の中で、特に「小地域への展開」、これがひとつのキーワードになっていました。このことは、我々の中で論議することも大事ですが、地域の現場で学区福祉委員会を足場として、学区福祉委員会が小地域の展開をどう考えて取り組まれるのか、その辺りが非常に大事なのではないかと思います。そこを飛ばして、小地域への展開は難しいのではないかという気がします。</p> <p>それから今日は保育所との関係から委員にお越しいただいて、保育所を拠点とした地域展開、これは子育て支援に関わる貴重なお話がございましたし、また別の委員からもご発言がございました。</p> <p>私はこの際、保育園だけでなく、障害者の福祉施設、それから高齢者の施設と地域福祉との関係ですね。これを計画の中に盛り込んで、それぞれの施設が自分のところに閉じこもるのではなくて、地域展開をしていくという方向でやっていくのなら、随分宇治市の地域福祉も点数アップに繋がるのではないかと思います。そういう意味で、社会福祉施設と地域福祉について検討を進めていきたいと考えております。入所施設、通所施設、各種のセンターがございますが、これは地域福祉活動の拠点でもあるわけです。その辺りも進めていく必要があると思っております。</p> <p>各地の計画も、第2次に向けて各地で行われているわけですが、子どもたちの取り組みに関しては、各地でかなりいいものができつつあります。宇治市でもそうではありますが、奈良市の場合、学生のボランティアサークルができています。これは、小学生、中学生、高校生、そして大学生も含めた学生のボランティアサークルです。そういうものの受け皿として、地域が応援していくのです。いろいろ工夫していけば、いろいろな取り組みができるのではないかと考えているところであります。</p> <p>宇治市は既に希望をもっていい取り組みがあちこちで芽生えておりますので、そういうところを計画的に報告していくことが我々の任務ではないかと考えております。</p> <p>大変長くなりましたけれども、以上をもちまして今回の地域福祉推進委員会を終了させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>長時間に渡りまして大変ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>